

2015年10月

各 位

日中友好協会大阪府連合会
会長 渡辺 武

映画「ソ満国境—15歳の夏」上映取組み賛同のお願い

平素より、国民の暮らし、平和と民主主義を守る諸活動に活躍されていることに心から敬意を表します。昨年来の「望郷の鐘—満蒙開拓団の落日」の製作上映運動に大きなご支援を賜り誠にありがとうございます。

劇映画「望郷の鐘—満蒙開拓団の落日」につきましては、「上映をすすめる大阪の会」が広範な民主団体・個人の賛同を得て結成され、日中友好協会大阪府連合会が事務局として「府下10か所、10,000人鑑賞運動」の達成をめざして上映がすすめられ、すでに大阪市中央区、天王寺区（クレオ大阪中央）、吹田市、堺市泉北ニュータウン、泉南市、東大阪市、東住吉区・平野区での上映が終わり、11月以降に、高槻市、守口市で上映が予定され合わせて7700人の鑑賞者が見込まれます。今後、大阪府下、5会場で準備がすすめられており年内には「府下10か所、10,000人鑑賞運動」が達成される見込みです。この間のみなさまのご協力に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

さて、日中友好協会大阪府連として、劇映画「望郷の鐘—満蒙開拓団の落日」にひきつづき、70年前の日本の中中国侵略戦争の史実を描いた映画「ソ満国境 15歳の夏」の上映運動に取り組み、12月18日、「ドーンセンター」にて上映することにいたしました。

この映画は、10年の構想と製作期間を経て完成した作品で終戦間近の1945年5月、田原和夫氏（本作品の原作者）ら「満州」新京第一中学の三年生130人がソ満国境の農場に勤労奉仕に送られ、8月敗戦直後置き去りにされ、進攻してきたソ連軍の激しい爆撃を受けながら、家族の待つ新京の町（現在の中国吉林省長春市）まで帰る壮絶な実体験記録の映画化で、70年前の日本の中中国侵略戦争の史実を描いています。

- ① 東日本大震災の被害者救済を訴え、「日中友好」と「不再戦」を勧める映画で、
- ② 安倍政権が強行した、憲法違反の「戦争法（安保法制）」廃止のたたかいと結びつけ、とりわけ廃案を求める運動のなかで素晴らしい役割を發揮した若者たちの間にひろげ
- ③ 太平洋戦争を知らない国民が80%を超え、18歳からの選挙権が法制化されたいま、戦争体験者から若者まで、日本の犯した侵略戦争の本質が理解される力があります。

つきましては、上映運動成功へのお力添えをお願い申し上げ、下記の項目での賛同と協力の可否を別紙回答書にてお知らせいただきますようお願いいたします。

（映画紹介とストーリーにつきましては、別紙を参照ください。）

記

1. 製作上映協力券普及（*1）と12/18「ドーンセンター」での上映協力のお願い
2. 地域自主上映運動への参加、ご協力

*1 製作協力者（11万円）には、配給元から@1100*100枚の「製作上映協力券」を贈呈しています。

(別紙) 内容は、公式ホームページより転載しています。

<参考> 公式ホームページは、<http://15歳の夏.com> です。

鳥越俊太郎（フリージャーナリスト）

敗戦とともにソ満国境に置き去りにされた15歳・中学生たち・・・。
戦争を語り継ぐことの大切さを改めて実感する。

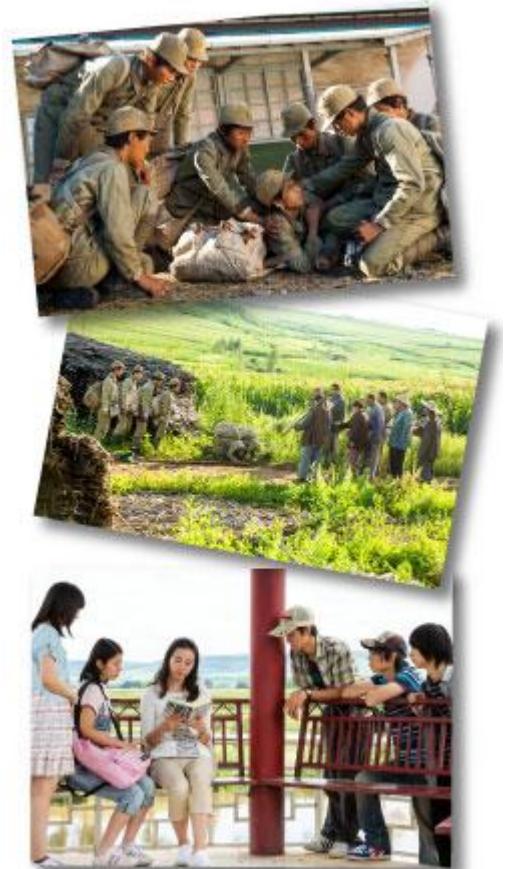
<映画紹介>

300キロの道のりを必死に生き抜いた120人の中学生たち！

日中戦争時、ソ連と満州の国境近くに勤労動員として送られた新京第一中学校の生徒たち。昭和20年8月、ソ連軍の爆撃が降り注ぐ中、ソ満国境に取り残され、過酷を極める必死の逃避行が始まった…。原作は田原和夫「ソ満国境 15歳の夏」。10年の構想と製作期間を経てついに完成した感動作だ。

中国ロケを敢行！様々な苦難を乗り越えついに完成！

監督は松島哲也。中国で3000km以上に渡る調査活動の末、中国ロケを敢行。反日デモで国外退去に遭うなど、様々な苦難を乗り越えながらもついに完成。キャストには『たそがれ清兵衛』(02)、『永遠の0』(14)、NHK連続テレビ小説「まれ」など、数々の話題作に出演する田中泯。さらに、日本アカデミー賞、芸術選奨文部科学省大臣賞など多くの賞を受賞、惜しまれながらも本作が遺作となる名優、夏八木勲。この他、香山美子(特別出演)、金子昇、大谷英子など豪華キャストが脇を固める。戦火で生きる15歳、現代に生きる15歳には、TVや映画で注目を集めている、いま最も旬な若手俳優陣が総結集した。



[ストーリー]

すべては一通の招待状から始まった――

未曾有の打撃を受けた東日本大震災から1年後の福島。15歳の敬介は仮設住宅への非難を余儀なくされていた。中学最後の夏。放送部の作品づくりができないことを残念に思う敬介と部員たちだったが、突然の招待状が舞い込んでくる。見知らぬ中国北東部の小さな村から、ぜひ取材をしてほしいというのだ。期待と不安を胸に果てしない平原が広がる中国へと旅立つ敬介たち。招待主は村の長老・金成義(ジン・ソンイ)。彼の口から語られたのは、67年前、15歳だった少年たちの壮絶な体験だった…。

